



2021年度公立高校入試 「徳島県」

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年と比較)	その他注目したい点
数学	大問2は連立方程式を立式する問題。 2通りの「考え方」を問う設問で新教科書を意識。	特に大きな変化なし。	融合問題は「場合の数＋平面図形」。設問自体は独立していて、基本レベルの内容。大問4・5は計算量が多め。
英語	大問6の英作文は意見作文になったが、語数は大幅に減った。	特に大きな変化なし。	タウンガイドやウェブサイト、食品ロスなど新傾向を意識した英文が並ぶ。 設問は易しい。
国語	作文はシンプルに「使ってみたい和語」。説明文は パネルや補足資料もある問題を出題。	特に大きな変化なし。	説明文は複数の素材文とまとめの図が定番に。記述の設問は多いが1問あたりの字数は少なく解きやすい。
理科	“完答で正解”になる問題は8問。 対照実験の考察や、次の実験結果を考える問題も。	特に大きな変化なし。	入試典型題が出題のメインだが、そこから発展させて考える問題もあり、例年、数問凝った設問が見られる。
社会	地理と歴史は資料が少なく、知識重視。用語を含む記述問題は難度が上がった。	左記の理由もあり、全体的にやや難化。	公民は知識をベースにしくみや理由を問う問題が多く、難度は高め。 “完答で正解”の問題は倍増して8問に。